

20朝建第1020号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

朝倉市長 塚 本 勝



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

このことについて別紙のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

道路は、国民生活や経済・社会活動を支える根幹的な社会資本であり、豊かな生活の実現と活力ある地域社会の形成に欠くことのできない社会基盤である。

高齢化、少子化が急速に進む中、個性にあふれる活力ある地域づくりを進めるとともに、安全で安心できる地域社会の実現を図るためには、高速道路をはじめとする高規格幹線道路から市町村道に至るまで、道路整備をより一層推進することが重要である。

しかしながら、小さな市町村が事業をやりたくても財源的に断念せざるを得ないのが実情である。

地方の負担を軽減し、真に必要な道路の整備を行うことが地方の地域社会の基盤を強化し、地域格差の是正を図ることになると考える。

道路特定財源が一般財源化されることに伴い、県事業で実施している国・県道の整備も「先が見えない状況にある」と県の担当者から聞く。

本市においても国・県事業の継続的实施が可能か否かで、今後のまちづくりが大きく狂ってくる。

したがって、一般財源化に関し、地方(県・市町村)の道路財源の確保を中心として下記の要望をする。

1. 活力ある地域づくりを推進するため、道路整備の促進を図るものとし、道路整備について必要な予算を確保し着実に整備すること。
2. 必要な道路整備が安定的に実施されるよう十分な予算措置がなされること。
3. 安全で安心な暮らしの確保や経済活動の発展を図るため、地域高規格道路や環状道路などの整備を効率的に推進し早期完成に努めるとともに、水害や地震などの災害に強い、安全で信頼性の高いネットワークの構築を図ること。
4. 画一的な道路整備ではなく、道路利用者の意見を反映した、地域の実情に応じた道路整備を推進すること。

②－１ 地域の現状と抱える課題

福岡県朝倉市

○現状

本市は、道路・交通の整備について主に国道386号・国道322号バイパスの事業促進や幹線市道網の整備、生活道路の整備などに取り組んでいる。

本市の未改良道路が46%で、その延長が422kmあるが、毎年、僅かずつしか整備できず、ほとんど進捗をみていない状況である。

また、一時的にアスファルト舗装化し舗装率90%となっているが、全体的に舗装の更新すべき時期になっている。

近年、ゲリラ的な集中豪雨が頻繁にあり、それに対応した道路排水施設の整備が急務である。

○課題

今後も円滑な交通網の確保とともに市街地の混雑を解消するため幹線道路の整備が求められる。

市の単独事業として行うのは、財政的に非常に難しいため対象となる補助事業の基準等を緩和していただき交付金等を活用して整備したい。

上記と同様に財政的に非常に難しい。また、道路構造物のみについての補助事業を認めていただく事を希望する。

②-2 地域の目指すべき将来像

福岡県朝倉市

本市は市内を回遊する手段が車に限られているため、道路の整備は他の市に比べても特に重要である。

現状で混雑が激しい広域幹線道路や地域内幹線道路を中心に、国や県と連携して道路網の整備に努める。

あわせて、公共施設周辺におけるバリアフリー化などの改良を継続的に実施し、歩行者や自転車が安心して通行できるよう暮らしに密着した生活道路の整備を行うなど快適な歩行空間の創出を進める。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

福岡県朝倉市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
幹線道路網の整備	国道及び県道の改良整備を促進する	道路は、人の移動や物流の大半を受持つ基盤施設であるとともにすべての交通機関をネットワーク化して交通体系全体を支えている。 本市が持つ都市部と山間部とが共存できるネットワークや個性豊かな地域の創出が期待できる。	
交通環境の向上	歩道設置や交差点改良等交通環境整備、交通安全施設の整備等安全で快適な交通環境づくりの推進	児童・生徒、高齢者や障害者などいわゆる交通弱者の安全が確保されるとともに社会参加の機会が図られる。 悲惨な交通死亡事故の軽減や抑止力の向上が期待される。	
市道の整備	地域再生のための取り組みである、道整備交付金事業により市道の改良整備を促進する。	市道の改良整備を行うことにより、観光施設のネットワーク化がなされ、また、国道、県道とのアクセスが容易になり地域活性化(観光客の増加等を見込んだ)が期待される。	